



■ 参考資料



(1) 高山市の森林・林業統計

① 高山市の土地と森林資源の状況

○高山市の総面積は217,761haで日本一広い市であるとともに、その92.1%の200,531haが森林で占められていることから、森林面積においても日本一広い市となっています。この面積は、滋賀県や茨城県の森林面積にも匹敵する大きさです。

○この森林のうち、国有林が80,842haで40.3%、民有林が119,689haで59.7%を占めており、他の地域と比較して国有林の占める割合が高いことがこの地域の特色となっています。

○民有林においては人工林が45,359haを占め、人工林率は37.8%（県全体45.1%）となっており、そのほかはマツ類やコナラ・ミズナラ・ブナなどの広葉樹からなる天然林が占めています。

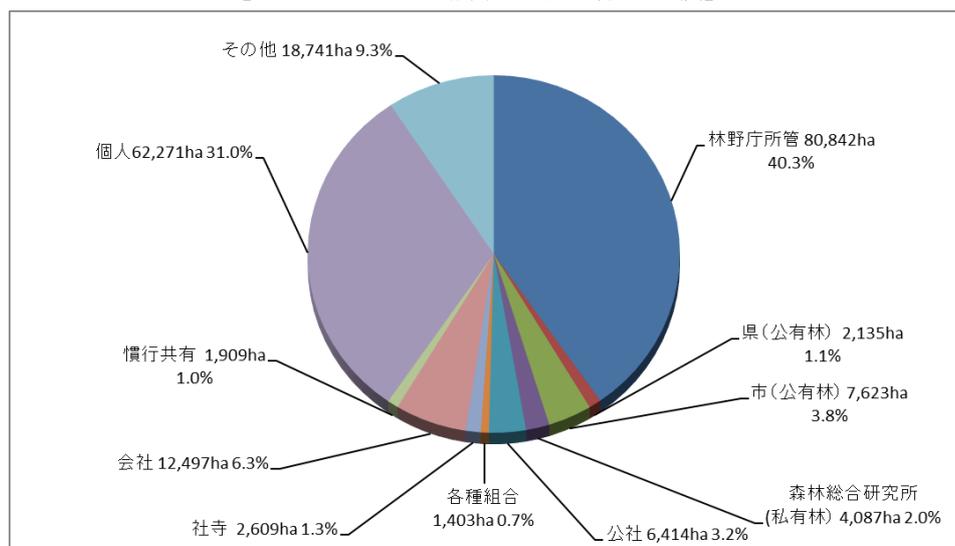
○なお、気候は内陸型で寒暖の差が大きいとともに、地域の全域が豪雪地帯あるいは特別豪雪地帯に指定されるなど、厳しい気象条件の下にあります。

[表1：高山市の総面積と森林面積]

総面積 (ha)	森林面積 (ha)	国有林 (ha)	民有林 (ha)	人工林	
				うち人工林 (ha)	人工林率 (%)
217,761	200,531 (100.0%)	80,842 (40.3%)	119,689 (59.7%)	45,359	37.8

(岐阜県森林・林業統計書 平成29年度版)

[図1：高山市の所有形態別森林面積]



(岐阜県森林・林業統計書 平成29年度版)



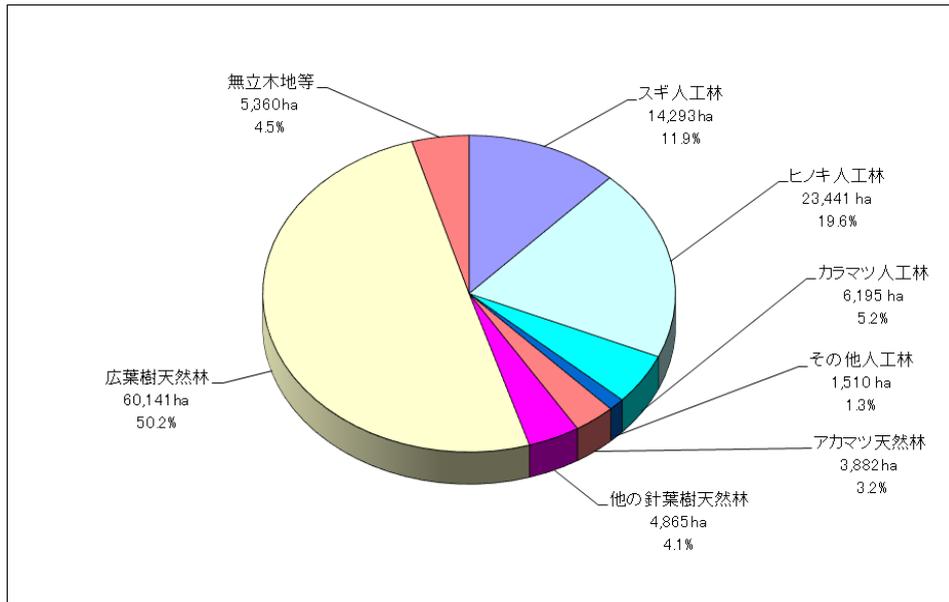
■ 参考資料



○民有林の人工林の樹種はスギ・ヒノキが大半を占めておりますが、スギよりヒノキの割合の方が面積・蓄積ともに多くなっています。

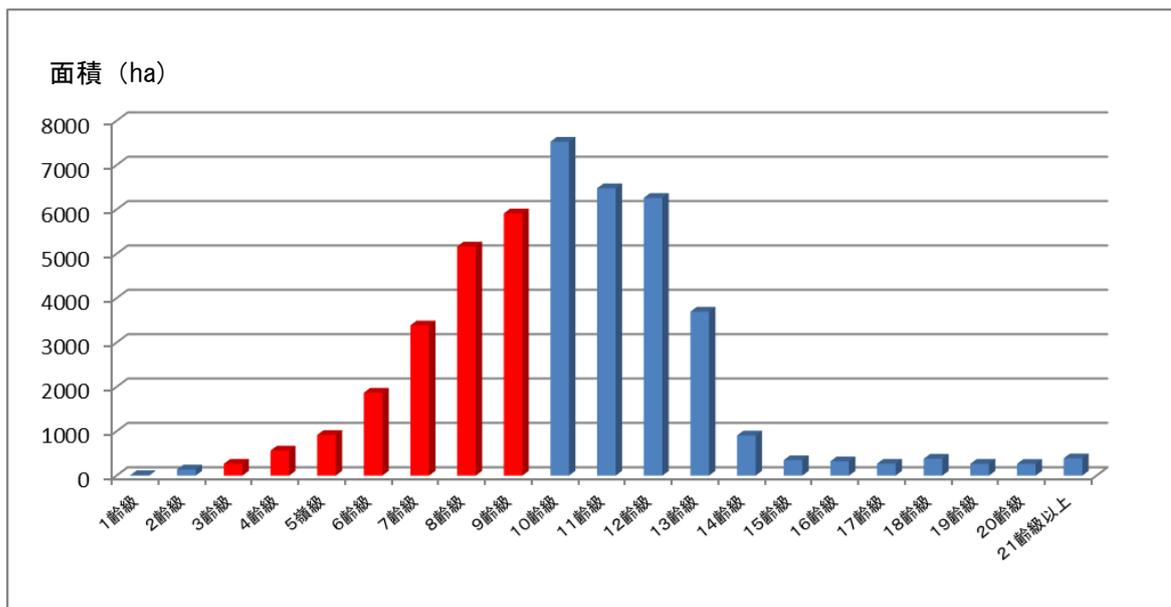
○この人工林を林齢の視点から見てみると、下刈りや雪起こし、除伐・間伐などの保育を必要とする9 齢級以下の面積が全体の40.2%を占めており、中でも間伐が作業の中心となる3～9 齢級の面積は約18千haで人工林全体の39.8%に達しています。

[図2：高山市の民有林における林種別・樹種別面積]



(岐阜県制・普別森林資源構成表 平成31年3月31日現在)

[図3：高山市の民有林における人工林の齢級別面積]



(岐阜県森林・林業統計書 平成29年度版)



■ 参考資料



② 人口と林業の担い手

○高山市内の人口は約 89 千人（国勢調査 平成 27 年）で、林家数（保有山林面積 1 h a 以上）は 4, 426 戸、林業従事者数は 283 人となっています。

[表 2 高山市の人口と就業者数]

市村名	人口 (人)	林家数 (戸)	就業者数 (人)				
			総数	第1次 産業	うち林業	第2次 産業	第3次 産業
高山市	89,182	4,426	48,853	5,264	283	11,134	31,975

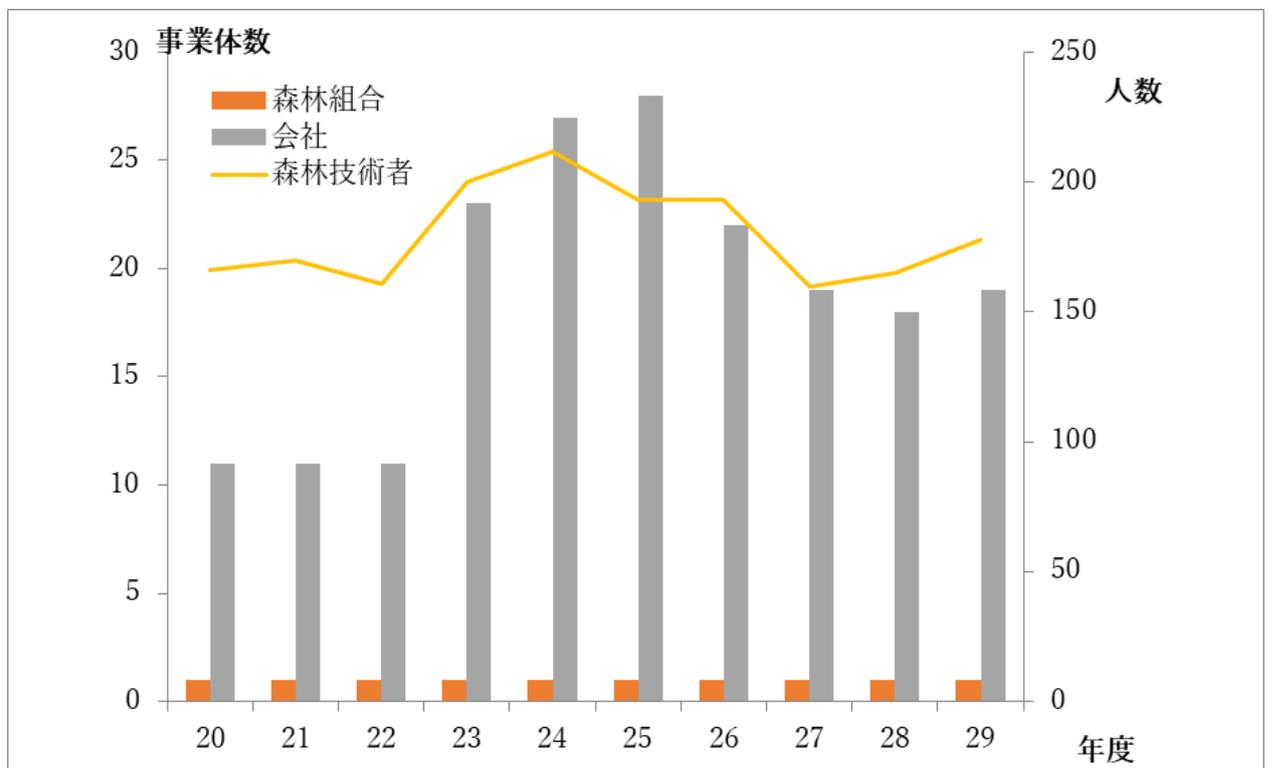
(国勢調査 平成 27 年版)

(林家数：2015 農林業センサス)

○地域林業の中核的な担い手である森林組合は、平成 17 年 6 月の組合合併により「飛騨高山森林組合」の 1 組合となりました。

また、森林組合以外の林業事業体は、19 社と 4 つの個人事業体の合計 23 事業体が活動しています。

[図 4：高山市における林業事業体数と森林技術者数の推移]



(岐阜県森林・林業統計書)



■ 参考資料



[表 3 : 飛騨高山森林組合の運営組織の状況]

森林組合名	役員数	職員数	森林技術者数	施設従業員	組合員数	組合員所有森林面積 (ha)	払込済出資金 (千円)
飛騨高山森林組合	18	43	67	29	6,970	103,502	657,981

(平成 30 年度飛騨高山森林組合 通常総代会議案 組織運営状況報告資料)

[表 4 : 飛騨高山森林組合の実施事業量]

森林組合名	実施事業量				
	造 林			作業道	
	新植 (ha)	保育 (ha)	間伐 (ha)	開設 (m)	補修 (m)
飛騨高山森林組合	22	533	1,205	19,629	21,961

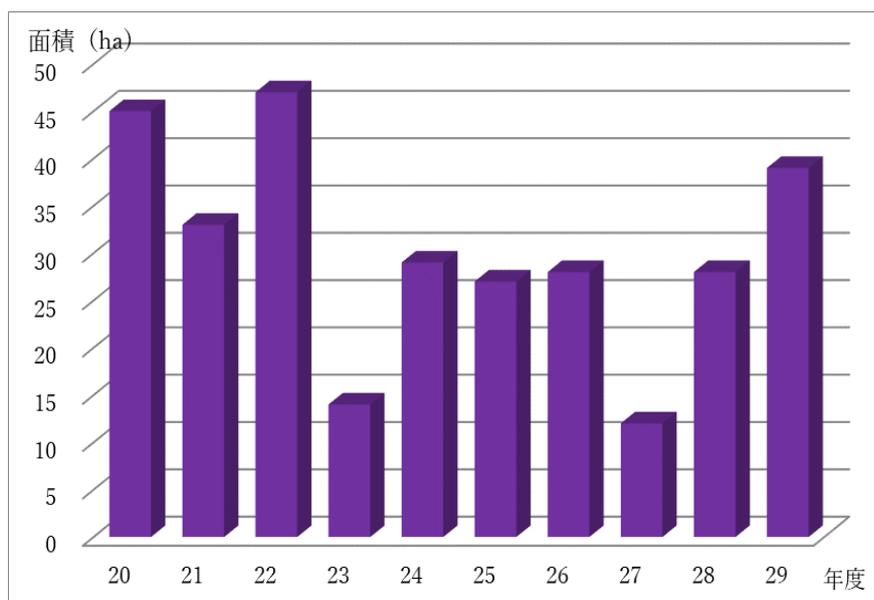
(平成 30 年度飛騨高山森林組合 通常総代会議案 事業報告資料)

③ 森林整備の状況

○かつては、当地域においてもスギ・ヒノキを中心とした拡大造林が盛んに行われてきました。

近年、減少の傾向が続いていましたが、林齢の平準化を図るため、増加の傾向にあります。

[図 5 : 高山市における新植面積の推移]



(岐阜県森林・林業統計書)

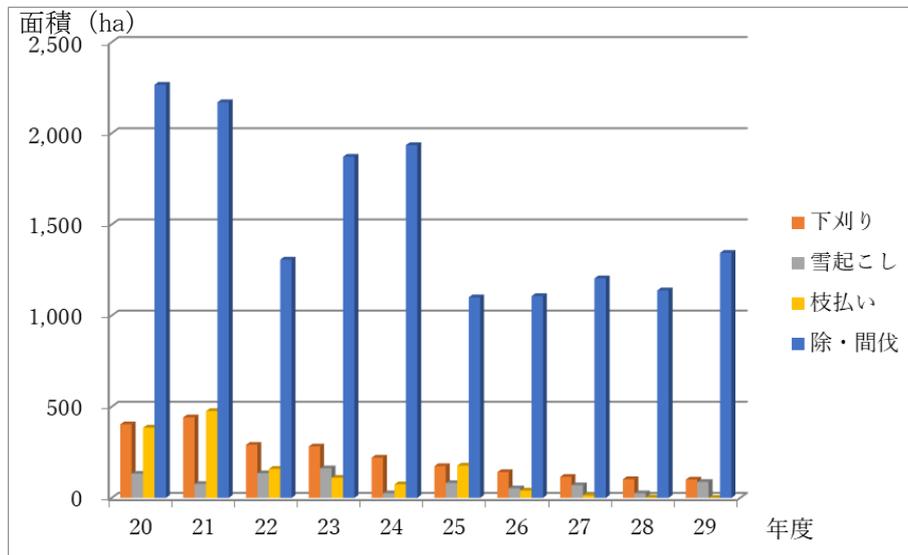


■ 参考資料



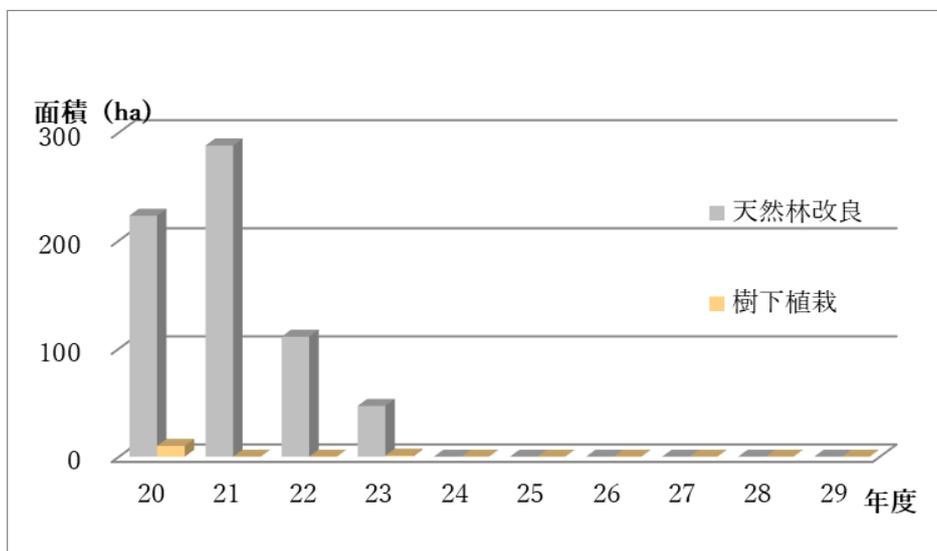
○下刈り・雪起こしなど比較的若い林で行われる作業の面積も減少していますが、林齢の構成が変化してきたことから間伐の対象となる齢級を超えた森林が増加しているため、現在は間伐が森林整備の中心的な作業となってきました。

[図6：高山市における保育面積の推移（単層林整備）]



(岐阜県森林・林業統計書)

[図7：高山市における天然林の改良と樹下植栽面積の推移]



(岐阜県森林・林業統計書)

④ 基盤整備の状況

○森林管理・林業経営の基盤となる林道については、高山市全体で約598kmになります。民有林内の林道密度は、4.885 m/ha となり、舗装延長は、169kmで、舗装率は、28.26%となっています。

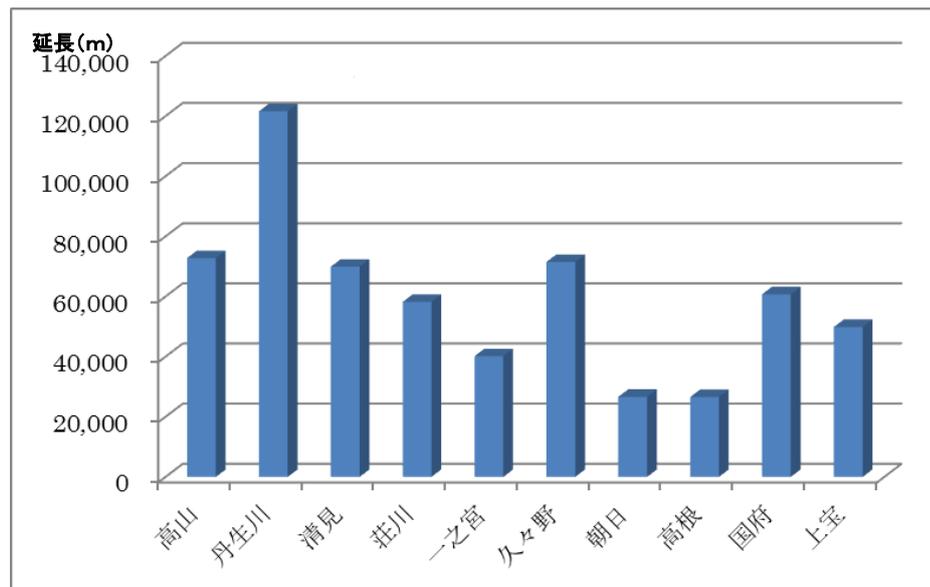


■ 参考資料



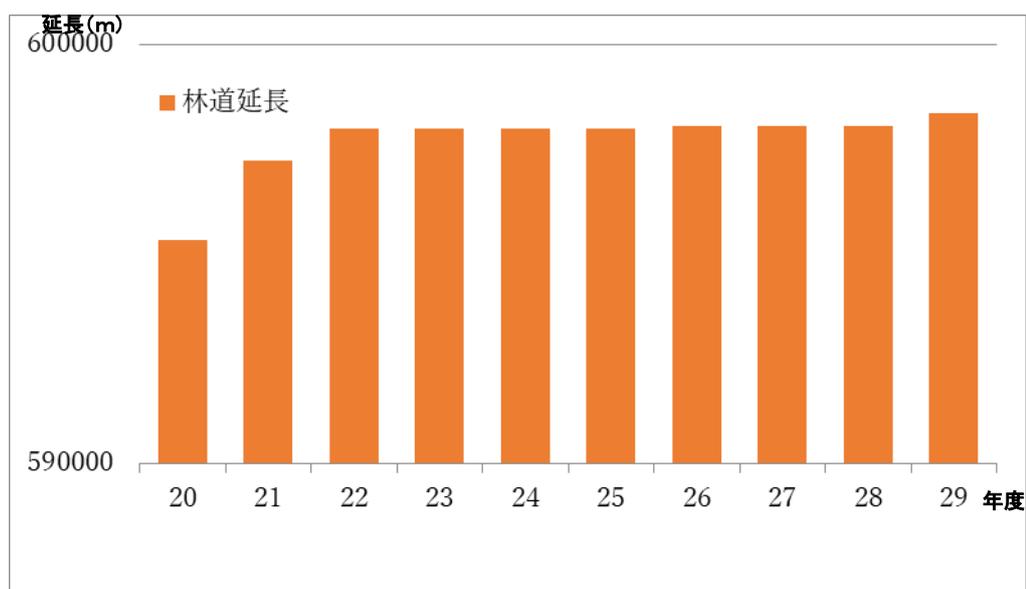
- 地域別の延長は、丹生川地域約122kmが最長で、高根地域の27kmが最短となっています。
- 舗装延長では、丹生川地域の38kmが最長で、朝日地域の0.7kmが最短となり、舗装率は久々野地域の44.5%が最も高く、朝日地域の2.8%が最も低い舗装率となっています。
- 作業道については、市全体で近年約30kmの開設が行われています。

[図8：高山市における地域別林道延長]



(高山市林務課 平成30年度版)

[図9：高山市における林道延長の推移]



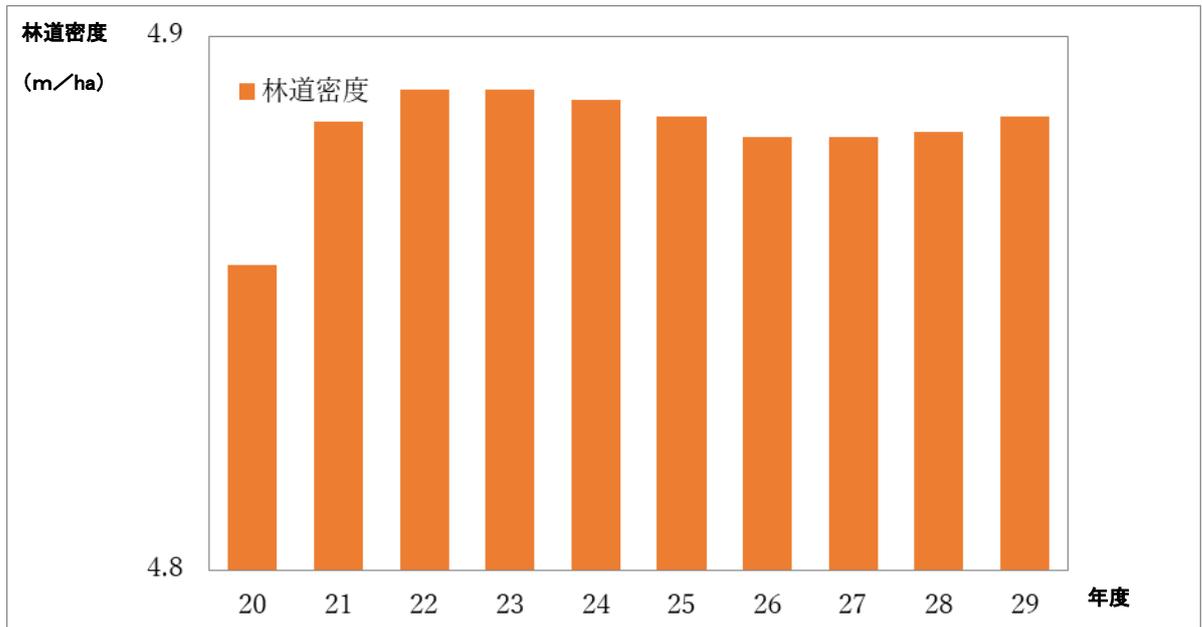
(岐阜県森林・林業統計書)



■ 参考資料

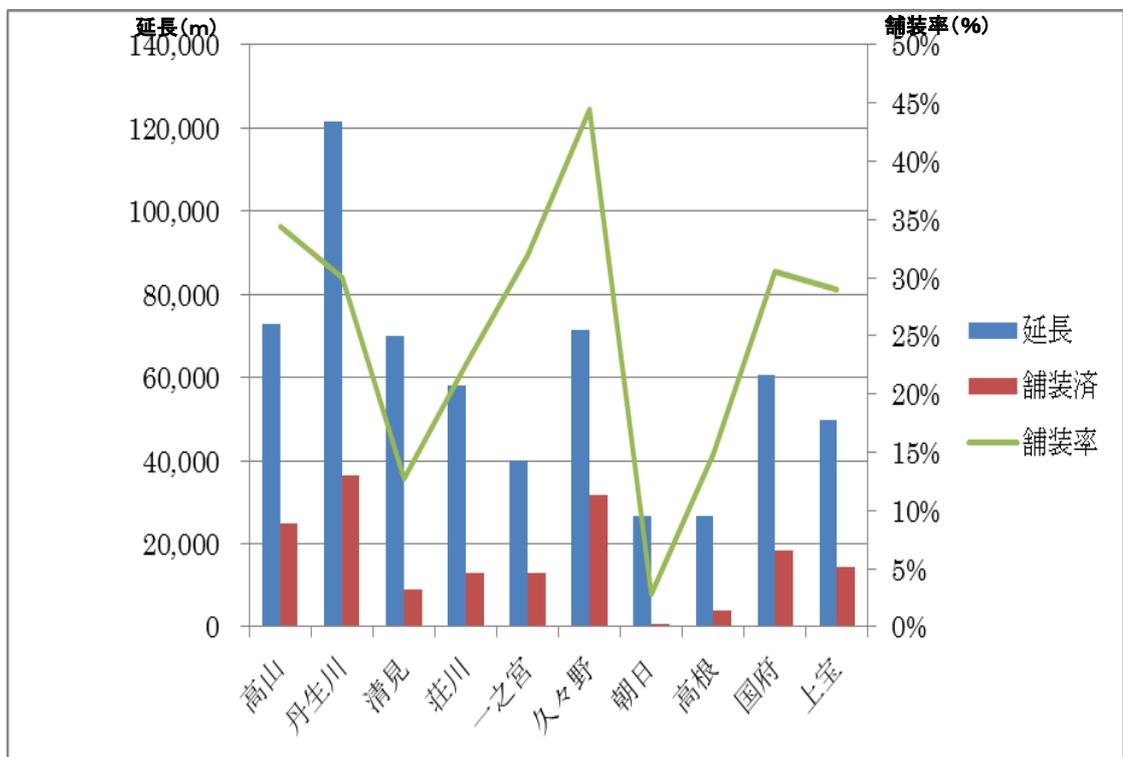


[図10：高山市における林道密度の推移]



(岐阜県森林・林業統計書)

[図11：高山市における地域別林道延長及び舗装率]



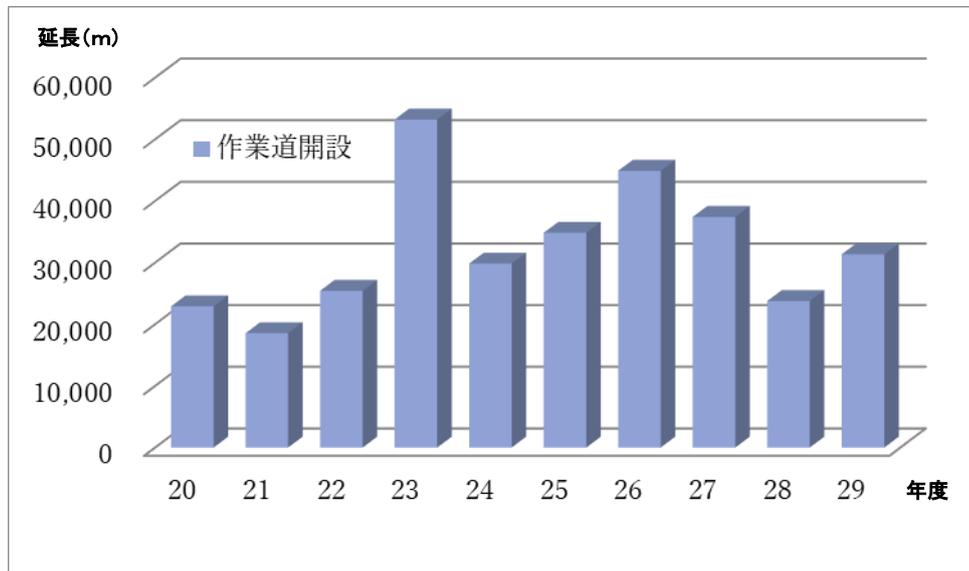
(高山市林務課 平成30年度版)



■ 参考資料



[図 1 2 : 高山市における作業道開設延長の推移]

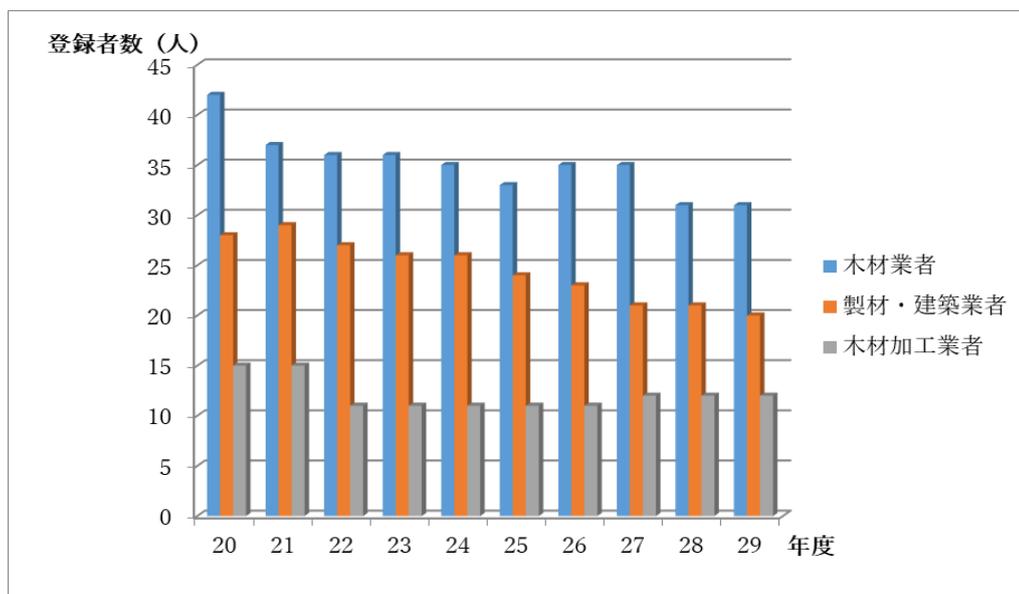


(岐阜県森林・林業統計書)

⑤ 素材生産・流通・加工の状況

- 高山市内の素材生産量は材価の低迷などにより年々減少の傾向にあり、これら素材生産の担い手である木材業者、そして材の供給先である製材業者・木材チップ業者の登録者数も年々減少の傾向にあります。
- こうした素材生産の場においては、作業の安全性の確保とあわせ、事業箇所の団地化及び高性能林業機械などの活用による効率性の高い作業システムの導入がすすめられています。
- 市内で生産された木材は、直接、あるいは高山市内の原木市場を経由するなどして地域内外の製材・加工工場などに渡っております。

[図 1 3 : 飛騨地域における木材業者、製材・建築業者、木材加工業者の推移]



(岐阜県森林・林業統計書)



■ 参考資料



○また、地域内に豊富にあった広葉樹資源などを活用して発達してきた木工・家具産業が地場産業の大きなウェイトを占めている点も、この地域の特徴として挙げられます。

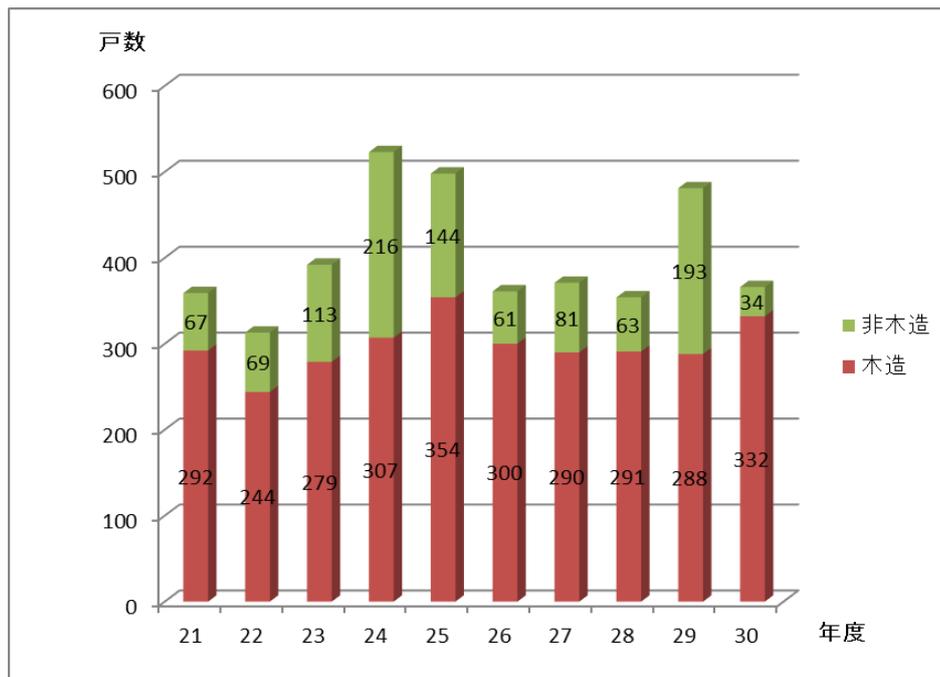
⑥ 木材の利用状況

○市内の木材利用の中核をなすものは建築材としての利用であり、高山市では住宅構造材として地域材の利用拡大を図る施策についても推進しています。木造住宅推進の核となる産直住宅建設団体としては、現在、市内では2団体が活動しています。

○また、公共施設の木造化・木質化について、高山市公共施設木造化方針に基づき、小・中学校や公共施設などにおいてその推進を図っていると同時に、学童用の木製机・椅子の導入に関しても早期から取り組みを行っており、木材のPRと情操教育を推進する上で効果を上げています。

○木材利用の中核をなす建築材の需要に関し、近年の高山市内の新設住宅着工戸数は年間約400戸となっており、そのうち木造住宅戸数については全体の約8割程度です。

[図14：高山市における新設住宅着工戸数の推移]



(岐阜県着工新設住宅概報)

⑦ 特用林産物の生産

○森林資源を有効に活用し、収穫までに長期間を要する林業経営を補う特用林産物については、飛騨地域においては、シイタケ・ナメコなどキノコ類のほか、トチの実やフキ・ヒメタケノコ・サンショウなどの山菜類、炭、薪が生産されています。

○特に豊かな天然林から産み出される天然性のキノコや山菜については、他地域にみられない多様性を示しており、当地域の特用林産物生産を特徴づけるものとなっています。



■ 参考資料



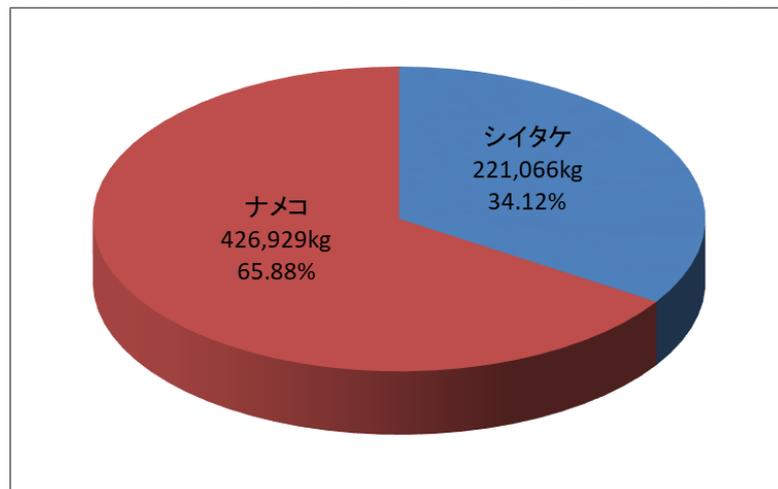
○また、人工栽培による特用林産物のシイタケについては菌床による生シイタケ栽培が中心で、高山市・飛騨市の両市において生産がなされています。高山市では、221,066kgが生産され、主に中京・関西市場に出荷して高い評価を得ています。ナメコについては、高山市内の大規模な施設栽培を中心に426,929kgが生産され、県内外に販路を拡大しています。

○山菜類のサンショウについては、6,000kgが生産されています。

○山菜類は、地域内の加工業者に加えて飛騨高山森林組合、飛騨市森林組合の双方が加工施設を有しており、これらの施設から様々な製品を出荷しておりますが、採取者の高齢化などにより、地域内で原材料を集荷することが困難になりつつあります。

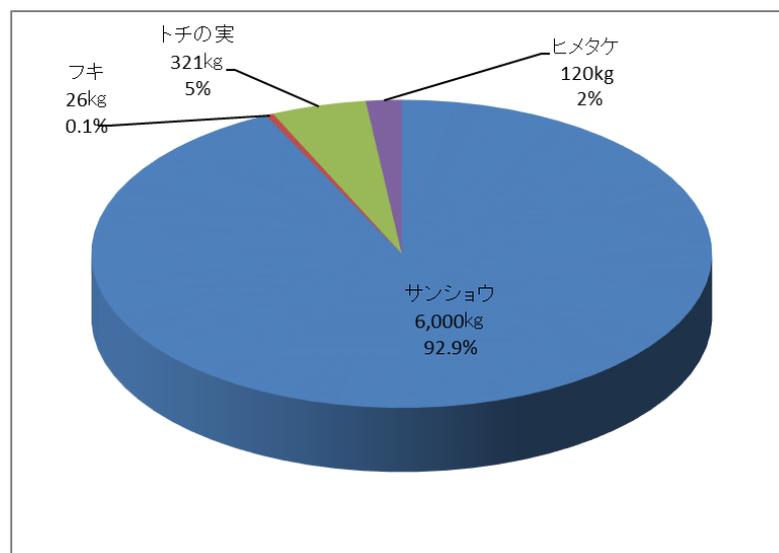
○また、炭は、198,091kg、薪は、2,170m³が生産されています。

[図15：高山市における特用林産物の生産量（キノコ類）]



(岐阜県特用林産物調査 平成30年度版)

[図16：高山市における特用林産物の生産量（山菜類）]



(岐阜県特用林産物調査 平成30年度版)



■ 参考資料



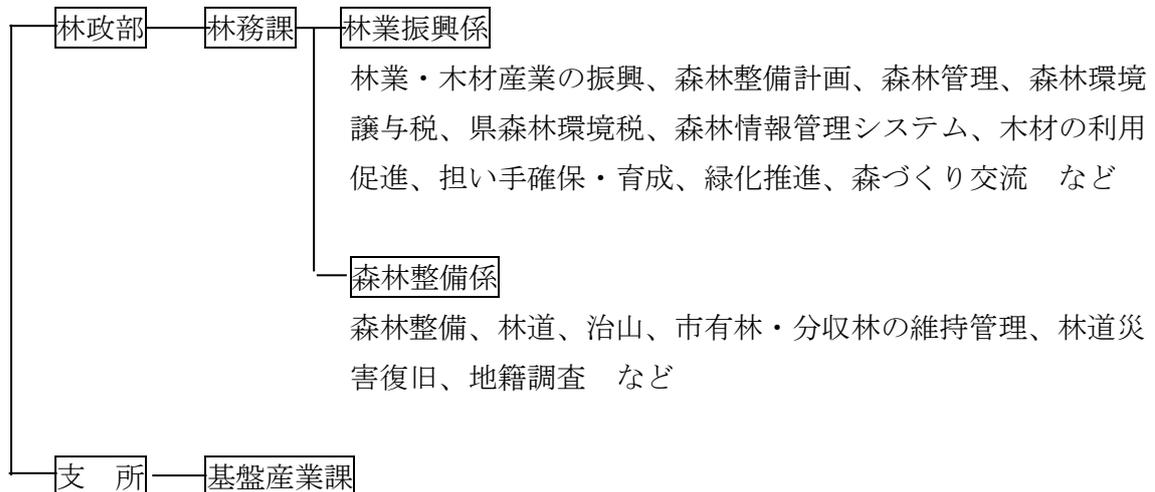
⑧ 森林経営管理制度による経営管理権の設定状況

○設定無し

⑨ 高山市の森林・林業行政組織

○平成17年2月1日の市町村合併に伴って広大な森林を市域に有するようになったことから、高山市の組織も改編を行い、「林務課」を新設し、平成31年4月1日からは、「林政部」を新設しました。

○林務課では、森林・林業行政を一括して所管し、適正な森林管理の推進を図るとともに、森林組合や市内の関係団体などとの連携により地域林業の活性化に努めています。





■ 参考資料

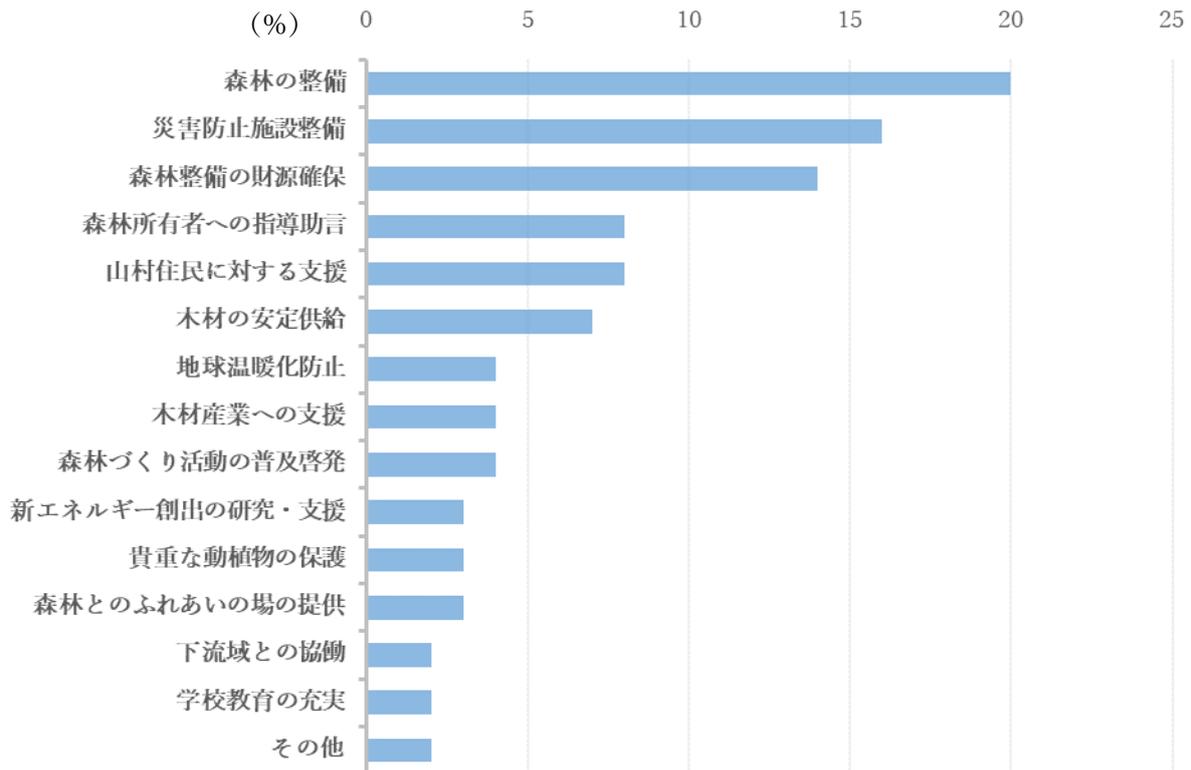


⑩ 市民アンケート結果

○平成31年2月から3月に市内13会場において、アンケート調査を実施しました。

[図17：アンケート結果（回答総数：237枚）]

森林・林業の取り組みとして、どのような内容を希望されますか？



その他に期待されること

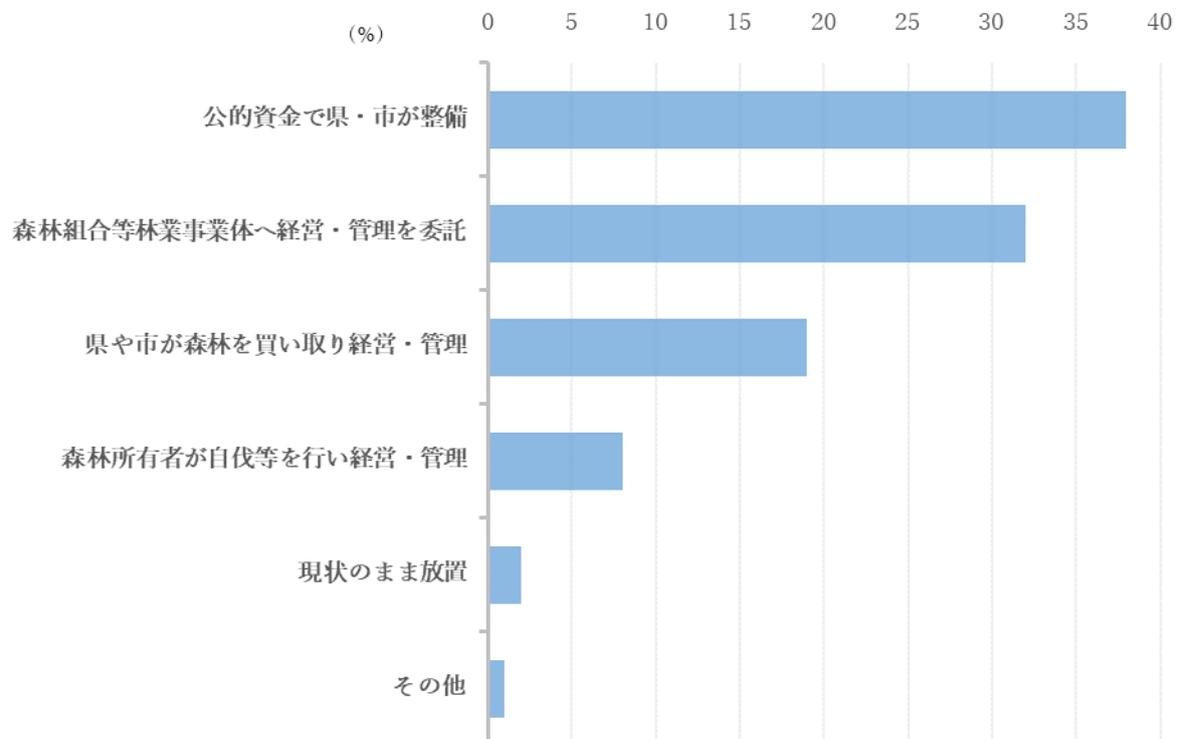
- ・地籍調査
- ・鳥獣害対策
- ・境界明確化
- ・水資源保存
- ・林道の整備
- ・水資源の確保としての政策
- ・安全で自然災害に強い森林づくり
- ・間伐の徹底
- ・針葉樹林帯を広葉樹林帯に変更していく政策の推進
- ・天然林の保護、拡大
- ・人材育成
- ・熊剥ぎ対策
- ・作業道の整備
- ・温暖化対策
- ・花粉の少ない樹種を植える



■ 参考資料



森林整備を行うには、どのような手法が良いとお考えですか？



その他に期待されること

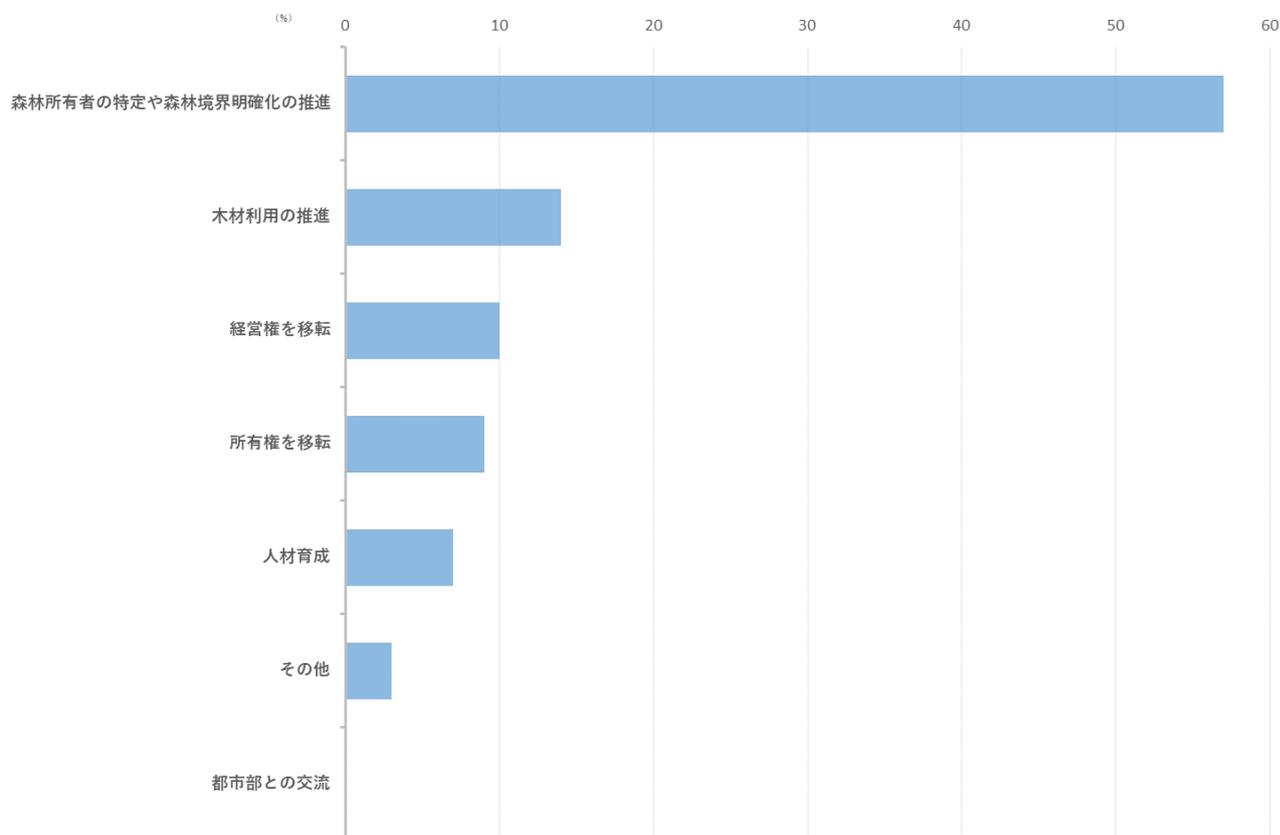
- ・ 法、条例の検討
- ・ 外国資本を対象としない政策を早期に実施する



■ 参考資料



森林環境譲与税の活用で、どのような事を希望されますか？



その他に期待されること

- ・ 鳥獣害対策
- ・ 飛騨の木材を使ったおもちゃの開発
- ・ 全国の子育て支援施設へ製品のアプローチ、導入推進
- ・ 間伐の支援
- ・ 森林を活用したイベントへの補助（ツリークライミングイベント及び整備）
- ・ 林間学校、体験学習
- ・ 間伐材の有効利用
- ・ 木材利用と製材品価格の安定
- ・ 針葉樹林帯を広葉樹林帯に変更していく政策の推進
- ・ 国有林のように市有林や県有林をつかってほしい
- ・ 林道整備
- ・ 労働者の確保